millchan

vol.1

buringuru
cocoa
kentaro imayui
shoko kusuno
seizen miyabi
tom hibino
yuko tahala

ミルチアンは、お菓子の缶ヅメや
何処かの国の雑貨屋さんのような
詩やお話やイラストを
あつめたり、まぜあわせたりした
ちいさな雑誌です。
スウィーツなのからビタァ、マイルド、ちょっとキワめの味覚を
ご試食あれ。

table of contents

初　恋 10
楠乃頌子

キモメちゃん ゴールドをおもいしれ！ 12
田原優子

世界第一放送局／デジャヴ 20
宮弥星全

遊園地へII 24
今唯ケンタロウ

illust 5
KOKOA

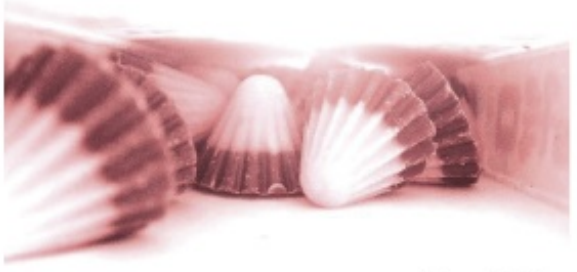
photo&words 1
日々ノ十夢

essay 18
ブリングル

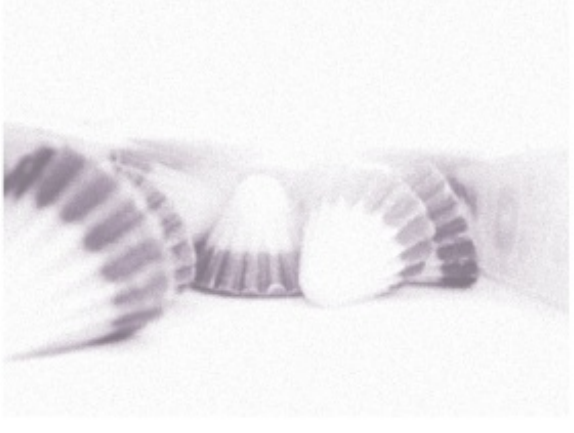
◇今月の詩人◇ 6

投稿コーナー 26

編集後記・次号予告 31



甘い待機。



もはや詩。

垂の精度。

photo&words

日々ノ　十夢

大人のアポロ。

2009.2

隔月刊

ミルチャン

詩童話行かつか

MillChan Magazine

Design Basket

遊園地へII

今唯ケンタロウ

5

まっしろく、細長い回廊を、何処までも歩いていく。光彩がにじんで、少しぴんくがかって見えるところもある。

ア、貝ノ迷路……　海へ帰ル道……

しろく輝く回廊は、左へ左へ廻っていく。それはステキな角度で、左へ曲がるのだ。

銀いろの魚たちの群れが、波のようにおし寄せて、おし寄せ、なにかの壁をつきやぶろうとしている、このイマージュは何処から来る……

その魚たちの声が集い、まるでそれは楽しそうなのだ。

ア、貝ノ、迷路、迷宮……　海へ……

回廊を歩くのも、ステップを踏む軽やかさ。どれだけ左へ折れても、回廊はつづいてゆく。
銀いろの魚たちは、翼をえたいきもののように、とんでいく。いっせいに。こんなに、卵からかえり、新しい世界へ生まれていくものみたいに、彼らはどこか喜びにみち、おどろきにみちているのだろう。……

回廊は、狭まってきて、わたしの目には一点の黒が見える。回廊のおわり。わたしがこれからいくところ……
魚たちがとんでいく。いってしまう。魚たちは、光だ。……わたしは。

とても暗い闇が、からだをのみこんでいく。
こんなに暗い闇と、まざりあい、今にもとけそうだ。魚たちはもう見えない。闇だけか。

貝ノ道、海ヘノ……

初

Valentine & White Day

特集＊テーマ＊バレンタイン・ディ＆ホワイト・ディ＊初　/　恋＊

恋

初恋

楠乃　頌子
KUSUNO shoko

さみしさは空腹感に似ています

君と会い初めてそれを知りました

他愛なく朝夕交わす挨拶が

私には嘻しく時に苦しくて

少しだけ毛布の隅を噛みました

キモメちゃん コールドもおもしろい！

TAHALA yuko

夜半と、ちいさな雑草や花や、おとぎれっ車が好きな子がキモメちゃんで、いつもピカピカした、色がきれいなものがあるともっとこの世の中のことが好きになるんですって。

お洋服が大好きなのもキモメちゃんのめじるし。しゅ色や、レモンいろや、アップリケなんかも採り入れる。それから、キャラメルがいつもポッケにはいっているのが、かのじょなりの生き方。

（ポッケのないワンピースやスカートの日は、ふわふわした髪の毛のなかに隠しておくか、ボンボンのついたボアのふくろは町にいくときも花畑にいくときもいっしょなのでそれにぷいっといれているよきっと）。

花のめしべから抽出されたのがキモメちゃんであって、キモメちゃんが生まれたときには、キモメちゃんが生まれたってこと。息をしはじめたってこと。そのときが世界のはじまりだった。

髪の毛が栗色で健康的。まつげがピューとながい子。大人といえば、もう大人かしら。女の子なので、ちゃんと、女の性だけがもつ優れた生殖器官、子宮をからだにもっている。ところで、どうしてキモメちゃんは、キモメちゃんっていうなまえなの、とよくいわれるんですって。

Qなぜ？
Aそれはキモメちゃんが、あるしゅのキモメなことを発声、能動的に行動にしちゃう子だからなのです。

「おちんちんくんがいい！」
ビンにつめてあるいちごのジャムをみているときにキモメちゃんはそう言いいました。
石鹸やさんにいるときも、たしかそう言いました。店のひとがすこしおどろいていましたがキモメちゃんのことをおいだしたりはしませんでした。
キモメちゃんは、ひとりでいることも、ひとりじゃないみんなでいることも好きでたのしんでいました。言葉が好きということも、キモメちゃんにはあって、おもいついたことを自然と影も形もない、色もない、言葉にして二酸化炭素にするということでキモメちゃんの体内の浄化、神経はたもたれているといっても過言ではないのでした。あたまや、からだのなかに言葉がたまるのは、そのうち窒息死をまねきかねないからです。
言葉がたまってくると、細胞をとおって、神経伝達通路にかんしゃくをおこさせるということもある。
でもね、みんなのなかにいても、キモメちゃんはひとり。みんなでいてたのしいけれど、どこかいつもひとりでわらっているのがキモメちゃんなの。孤独ではない。わからないけれど、それは、そんなすっきりしたものではなく、うっくつや孤立のほうに似ているとおもう。

こっそりきょうは、ミルク紅茶をのんでいたら、じぶんもこれになりたいとおもいはじめ、キモメちゃんは

「ミルクライツ！」

といいながら、なにかをおもいつきました。

「ミルックグッド！　ミルックライツ！」

キモメちゃんはカップのなかにあしをつっこもうとしたけれど、当然無理なはなしであって、すぐにやめました。

そこで隣の町までミルクを買いにいった。ビンいりで8本をひとケース買って、そのついでにブラジャー売った。

それからは夜までバスタブにミルクをそそいでいたの。シャワールームはひろいのよ。金いろのあしのついた白いバスタブのまわりにはまだ男の子といっしょに新聞ひろげて読めるくらいある！　わたしは新聞なんて一度も読んだことないけどね。新聞なんて新聞紙だもんね。さかなをつつむものでしかないもんね。

よなかになって、キモメちゃんはしずかに、たっぷり、あたたかいおふろにはいったんです。もちろんあたためましたよ（だからよなかまで時間がかかったの）。そして、すこしだけは顔をしずめてのみました。

おてんきのよい日、キモメちゃんはボアのふくろをさげてお散歩していました。紺色のワンピースを着て、髪の毛にまんまる ×2のかざりをつけて、おしりをぷりぷり、つまさ

きまでヒールでかためてぽつぽつあるいていました。
「シナモンロールブラウン、チャンス！　シナモンロールマウンテン！」
とうたいながら、キモメちゃんはアネモネの花畑をとおりすぎて、まっすぐすすんでいく。
「……かたまりもんぶらん……」
とふいにだれかがつぶやくのでキモメちゃんははっとしてきょろきょろしたのです。
それを言ったひとは、しるこちゃんでした。
「どうしてかたまりにこだわりをもつの？」
とキモメちゃんはしるこちゃんにききました。そのときキモメちゃんはおしっこがしたくなったので、ちょうどなぜだか地面にお皿がおいてありましたから、お皿におしっこをしました。（スカートですっぽりなのだから、なんにも有害じゃないのよ）。
「あたしのなかにかたまりがうまれたんですって」
しるこちゃんが噛みつくようにいいました。
「だれがそういったの？」
「おいしゃさん」
「かわいそう」
それからキモメちゃんは
「レントゲンやさんにいきましょうよ」
といったので、しるこちゃんといくことにしました。しるこちゃんは困った顔でずっといました。あるいているときもかなしげで小鳥みたいにちいさくなってしまいました。と

ちゅうでキモメちゃんは、かたまりがうまれたってそれはあかちゃんがうまれたということなのじゃないの？とおもって、しるこちゃんにいってみましたがしるこちゃんは、「あかちゃんなんかじゃないわよ！　ちゃんと、かたまりっておっしゃってらした！」と悲鳴じみたこえをはりあげました。

レンガ畳ぞいのレンガでできたレントゲンやさんで、しるこちゃんはじぶんのなまえをちゃんといいました。レントゲンやさんのきぐるみのひとは、しるこちゃんのレントゲンをさがしました。

しるこちゃんのからだが投影されたレントゲンを見せてもらうと、カクカクしたものが星みたいにちっていました。

「しるこ氏、しんぞうにかたまり有り、かたまり成分はパンのみみ、パンのみみたべなければＯＫ！」

きぐるみのひとの説明をききおえました。紙を渡してそのレントゲンをもらいバイバイしました。

「パンのみみ、好きすぎてまいにちたべちゃうの」

しるこちゃんがいってキモメちゃんは、

「わたし、きらいよ、パンのみみ！　これから、パンのみみだけしるこちゃんにあげる！」

といいました。

「かたまりがもっとかたまりになるから、いらない」

それからしるこちゃんは念のためにもういちどおいしゃさんへいったの。

わたしは、ご厚意でべーぐるやさんにシナモンロールマウンテンもらっちゃった。でも腐りかけだったので空にぷいっとなげたらポアのふくろがボワンとおもくなって、なかにしんぴんのシナモンロールマウンテンがとびこんでた。そのついでのついでにブラジャー売った。それからはちゃんとおうちに帰ってた。

キモメちゃんは　さいくらいにもなるけど、ヒールにあしをいれるとき、一瞬、右左をまよっちゃう子。ばらばらにぬぎすてるからそういうことになるのね。

変なかたちをしたゴムせいひんのちらばったいえでキモメちゃんはお化粧をしていました。二の腕にきいろのりぼんをむすんでいます。

「グッジョブ」

おおきいおめめのふちに、マスカラをべっとりつけてぱちぱちしました。

チークをいれました。

キモメちゃんのくちびるはもともとあかくてさくらんぼのようなつやつやしたものです。

＊次回へつづく！＊

初恋は3歳のときにやってきた。相手はしかも1つ下のいとこだった。それはもう早熟祭りだ。
3歳で初恋で相手は年下で、おむつもとれてなかったかもしれないどうするわたし！

おむつとれてないかもなしょうたくんにときめいたのは、馬に乗っているときだ。
馬の上で突然ときめいた。
馬の上だけになんかいかがわしい（？）

それは親戚との旅行でのことだった。
旅行先でありがちの乗馬体験に、親にありがちな願望で、かわいい子ども達を乗っけて写真三昧という、これまたお約束のコースをたどったのだと思われるが、肝心なことはふたりが一緒に馬に乗ったということだ。

写真を撮るおじさんの
「もうすこしくっついて～」という言葉に、テンションがあがるわたしの心の声を、恥を忍んでここに書き記すとこんな感じだ。

「うそ！　どうしよ！　おとこのこといっしょにうまにのるわけ？　っていうか、いっしょにうまにのっているだけで　ドキドキなのに　くっついちゃう？　これいじょうくっついちゃってどうするの？！
どうしよ、わたし、かお　あかくない？　っていうか、わたしが、ドキドキしているの、ばれてない？
おやにばれてない？　まいあがってるのきづかれてない？
だいじょうぶわたし？

たぶんこんな感じだったと思う。
今おとなになってみると……
この子絶対いや。
今読んでいるみなさまも軽く引いているかもしれない。
しまった。

よしもちょっと冷静な文章でまとめてみよう。

今まで異性として見ていなかった2歳児の彼と、馬の上で密着したとたん急に異性として意識しはじめてしまい、彼のことが好きになってしまった自分（3歳）に気づいてしまいました。

これもだめ。
冷静な文章にすると余計にだめ。
おめでとう。
さらにその晩、大人がまだ起きているふすま一枚隔てただけの部屋。布団を並べて寝ているというだけで、もうかなりときめいている。ときめきながら彼に尋ねた。
「しょうちゃん、鰤のこと好き？」
「うん、すき」

しょうちゃんの答えにずきんとくるわたし。
ずきんときながらしびれるようなその甘い感覚を、さらに一層楽しみたいと思いふたたび彼に尋ねる。

「鰤のこと好き？」
「うん、すき」

すなおすぎる。すなおすぎるぞしょうたくん。
汚れないしょうたくんは、純粋なこころで「好き」といっているというのに、だめわたし。
その晩布団の中で、そんなやりとりをくりかえしては萌えていたあの頃。

だんだんかなしくなってきた。

そだおとなの恋について語ろう。
（すでに初恋が十分おとなだけど）
おとなの恋。
おとなのわたしがする恋はおとなの恋だ。
たぶんね。
そうきっとそう。
さらに加えていうならば、人妻である（いやん）わたしはもうおとなの恋すらご卒業している。

と思ったら大間違いだ、えっへん。
おとなの恋もいろいろだ。
わたしの恋もいろいろだ。
相変わらずほれっぽい。
相変わらず他愛もなくときめいたりする。
そしてときどき痛い目にあう。
人妻なのにいいのか自分。

そこらへんは企業秘密。
相変わらずだわたし。

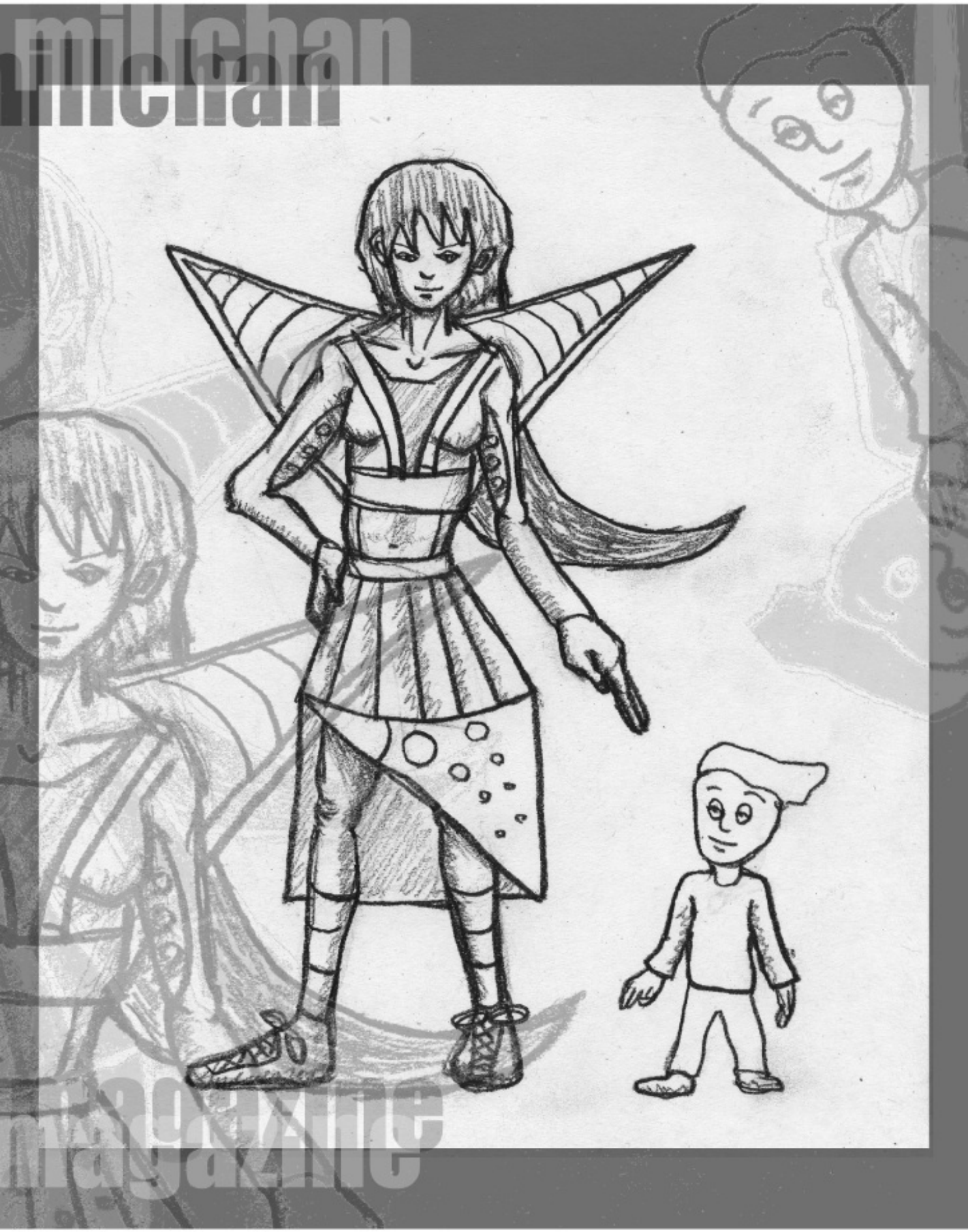
恋におとなとかこどもとかあるとしたら、
「相手のことを思えるか」とか、
「自分を見失わない」とか、
そんなご立派なことじゃなくっていいんじゃないかと思う。

それよりも、ご立派じゃない自分を、そんなご立派じゃない自分の恋を認識することだと思う。自分のことわかってやることだと思う。
「あー、わたしまたやってるよ」って、心のどこか片隅でそんな自分を見つめているこびとさんがいればそれでいい。
ちょっとだけ距離を置いて、だけどあまりつきはなしすぎず。
それで十分だ。
ということにして、わたしもおとななだけどご立派じゃない恋にまた、舞い上がったりときめいたりエロかったりしてくることにしよう。

今から、そう今から。

それではみなさんまたあう日まで。

次はあなたと恋をしてみたいと思っているよ



世界第一放送局

世界第一放送

物質に名前が眠っている
あのひとを起こしてはいけない
僕は彼女を悲しませてはいけない
僕が進もうとしている方向は
誰かに数え切れられるわけが
ないと思うし
いや、僕は結局なにも
手に入れてなんかいないと思うし
誰かが手にした何かなんて
考えられないことだし

音の鳴る夜の鈴の音は
たいがい腐り　朽ち果てる
光の羅列の自分の中の
醒めた心の外側の
意識の外れた世界の中で
五体は輝く残像の
生の匂いに嗅ぎついた

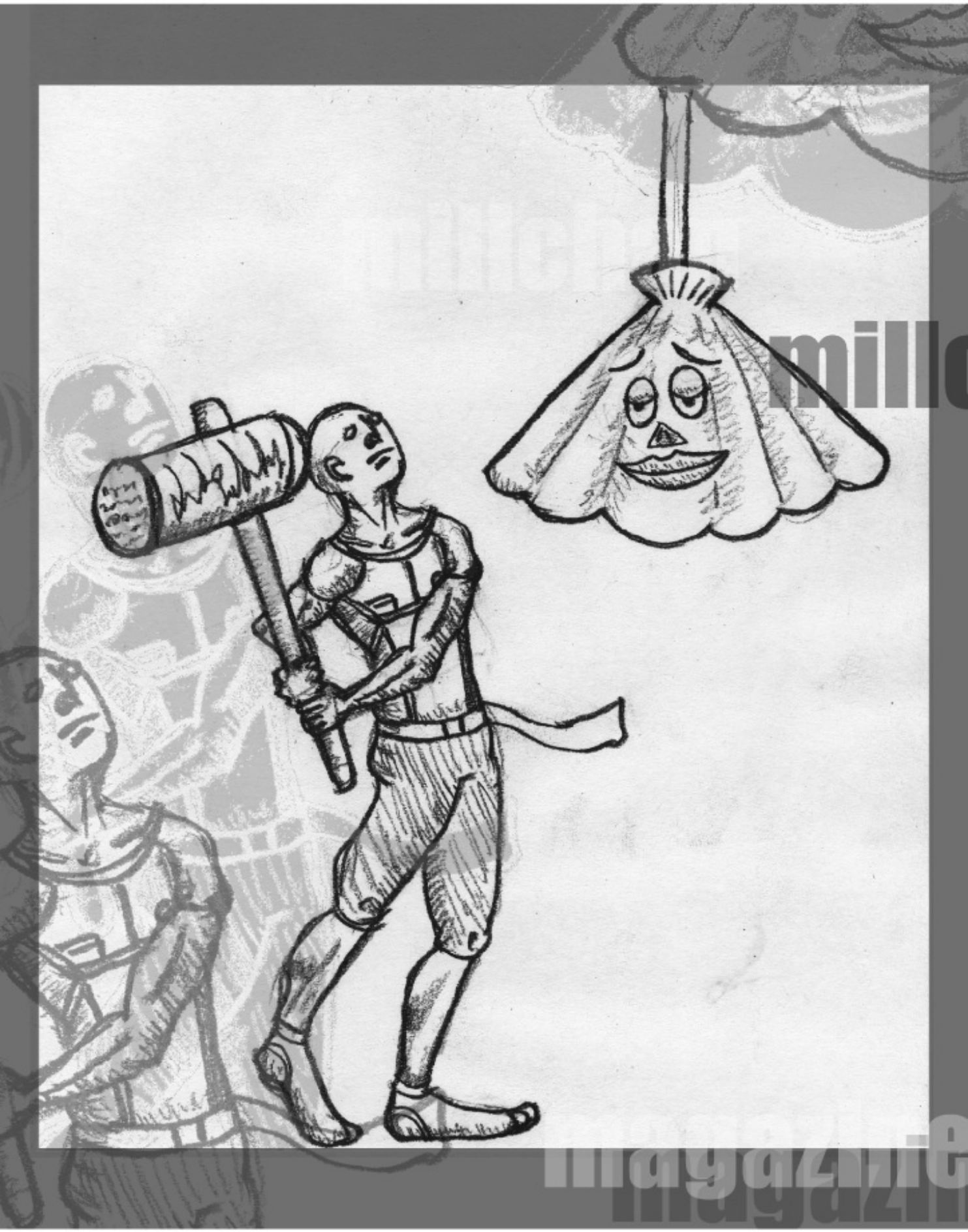
かわいいね君、名前はなんていうの
「ミルちゃん」
生まれたばっかりの子だね
「私、あなたの好きな人に
張りついたの」
ミルちゃん、僕はあなたの座る椅子になりたい
いわゆるキチガイというものかもしれない
同じ世界に進もうとする人は
同じ世界に進むにしたがって
枝や根っこのように
進めば進むほど
違う世界に分かれていく
悲愴めいた顔をしているけれど
後ろを振り向けば
通過した筈の
道という道はなくなっていて
よく、周りを見てみれば
立派なキチガイに仕立てられている

また一人　また一人
消えていく
鈍い光を帯びている
雲の斑（むら）がひしめき合う
あの光の間に
また心が独り昇っていく
けれども鉛の心では
全て行こうとする道が
事途絶えたように
すぐに行き止まりになる
そんな冷たい思想では
真っ暗やみの中にいる
本当に暗い人間になるのだ
金属の匂いだけが残るのだ
それはもう仮想の中だけの世界であって
その中で、何か光ったものを探す
僕は熱を帯びた鉄になりたいのだ
人間は禁断の果実をかじったからこそ
じっとしてはいれないのか
許されているのか、ミルちゃん

なんども星は地球の周りを
グルグルグルリと飛んでいる
未来の科学では追いつけぬ
遠くの方を飛んでいる
何度も何度も飛んでいる
きっと死んでも光ってる

「ＪＪＪＪ
深夜の世界第一放送局」

宮弥　星全
MIYABI seizen



デジャヴ
デジャヴ

黄金の貝がゆれている
部屋の真ん中でゆれている
晩年の暁
宇宙から見た地球や
地球から見た月や
外から見た中は
燃え尽きた後の灰で
地球から見た空は
丸い

そんな、大体を映し出す貝を
大きなハンマーで叩き割り
粉々に砕き
その飛び散った破片を
小さな袋に入れ
もう一度　もう一度だけ
辺り一面にぶちまける

そこで
ああ　デジャヴよ君に聞く
何で、君は確認が出来ないのか
僕の電子回路の
一部を抜き取り
君に接続して
大気に語りかける
君は僕にとって
深刻な問題なのだ
だが確かめる事ができない……

デジャヴ
途方もない質量の
二十四面体

ミルチアンの投稿欄

今月の作品

新鋭さん いらっしゃいませ。

2009.2

◇入　選◇

にたいきもの

ぴんぴん

ちょこれときっず

にたいきもの

ちよこれえときっず！
ちよこれいえとのみなあしごたち
ちよこれとのねまきでちよこれえとのねぶくろで
おひるねしてるあいだに
あったかいからとけてしまおうね
みなでとけて
ちよこれとのねまきごとちよこれいとのねぶくろごときっずもとけて
ゆめのなかでひとつになる
ゆめがそのままいまになり
とろけたまま
いつまでもあそんでいるような
ちよこれいとみなしごたちに
そろそろよるもちかづいて
こもりうたがきこえてくると
しずかにおねね
ちよこれいえときっず
しずまりかえったゆめの
ふくろからおもむろに
いっこ　にこ　さんこ
よんごろくななつご
ちよこれとみなしごきょうだい
さてそれを
とりだして
みなまとめてたべてしまう
ちよこれときっず
よるのおくちのなかで
またとけて
みないっしょにとけてとけながら
あそびはしゃぐゆめみてる
ちよこれときっず
はしゃいではしゃぎつかれたら
よるのしたのくらいとこで
とごっている
ちよこれときっず
しずかにねむるねねむっているね
あさがきて
おはようみなしごほいいくえんいく
みなしごちょこれときっず
どろんこあそびも
ぜんぶぜんぶちょこだから
ちょこにまみれてちょこになって
とけあってとけあてあそんでいるちよこれいときっず
ずっとそうしてじかんがすぎる
ゆめのなかでも
ゆめからおきても
ゆめといまとがもうまぜあわさって
ひるとよるとあさもぜうんぶまぜあわさって
ただひたすらあそぶ
ちよこれいときっず
とけてまわって
とけてまわって
どんなみなしごもひとりぼっちのちょこれときっず
だけどだれかといつもいるようなきもしている　ちょこれえときっず
いつでもとけてまたまわってねむる
そんな　ちょこれえときっず

ぴんぴんぱーてい

ぴんぴん

２００８ねん１２がつ１３にちだったっけ

みなさんもごぞんじのとおり、ぴんぴんはぶじに、みのかもしりつちゅうおうとしょかん2かいで、デビューをかざりました。

その日のよるは、ぴんぴんと、その物語を書いてくださったゆうこさんの前途洋洋か前途多難をしゅくふくか、かなしむかするための、せいだいなぱてぃーが、新宿御苑にてひらかれていました。これこそが、つまるところの、ぴんぴんぱーてぃーなのです。このことは、いちぶますこみたちにはひみつのことでしたから、しらなかったというひとがほとんどとおもいます。

森のいきものたちのはんぶんくらいのいきものが、れいのしょうたいじょうによって、きてくれました。そしていまゆいみるちぁん編集長はおわりがけにちょぴっとかおをおだしになられましたのですが、ぴんぴんのふるまいをちゅういぶかくずっとみているようすでした。

ぴんぴんはこのひのために、しろぴん５００グラムを森のしろくまのいえまでいって、しろくまにわけを話して、しろぴん５００グラムをもらって、よういしておくようにしました。（しろくまのいえのひょうさつには、ぴすとんうんどうちゅuとかいてあったときおくしているけどぴんぴん。でもよくいみのわからないことがらで

すね）

しろぴんとシャンメリーがかいじょうにはくばられました。ぴんぴんもそれをゆうこさんやなかまたちとぞんぶんにたのしみました。

それから、ゆうこさんはきしゃのひとたちにとりかこまれて、いんたびゅーをうけました。そのなかでも、こんな質問もありました。

「写真集のはつばいはいつになりますか？」

「だいがくへの講義にきてくださいませんか！？」「ぴんぴんさんのえさだいがかからないようにぼにゅうでやしなっているというのはほんとうですか！？」

そのときばかりはぴんぴんちょっとさみしくなっておとうとのことをおもいはじめていました。最近、おとうととはれんらくがとれずにいます。ぴんぴんのおとうとはいま、しゅぎょうにでています。すこしばかりせんじつもしょうそくをたちました。しばらくしておうとうねがいますとだいやすると、ぴ〜・・・ピ・・こちら・・・。。。つぶぶぶぶぶbとなって、だいやはとだえてしまいました。それからまた日一日してあさおきると、ぴんぴんのぱそこんにエアメイルがとどいていましたのです。それはおとうとからでした！

ゆうこさんのことば、のときには、どれすこーどのゆうこさんが台にのぼってあいさつしました。

「きょうは、ごたぼうちゅうにもかかわらず、ぴんぴんとわたくしのための、そして言いかえればこれからの時代のこどもたちの物語のパイオニアであるぴんぴん、森のいきものたちを祝福するパーティーにあしをおはこびくださりましてありがとうございます。わたしは、へんなひとで、いままで、すとりっぱーのめんせつにいったり、きゃばくらたいけんにゅうてんしたり、AVじょゆうになっておかねをかせごうとしていました。けれどもそのどれもにたいするゆうきもよぶんにはありませんでした。このたびぴんぴんの物語を書き下ろし、絵を描いてかみしばいにしてこどもたちにひろうしました。それはおもってもみなかったことでしたが、わたしにちゃんとできました。」

ぱとぱとととこまぎれの拍手がおきました。

（そしてここにいるほとんどのおとこのひとはゆうこさんの顔や、おppいや、こしつきや、あしくびや、あでやかさなんかをじっとみていたにね。ぴんぴんメモより）

ぴんぴんのばんになりました。

「ぴんぴんです。きょうはありがとうございます。さきほどごしてきがありましたね。それをこれからゆいたいとおもいます。これからの、ぴんぴんの、めざすところは、いまゆいさん賞です。ぴんぴんは、きょうのこのばでなにをはなすか、ゆうこさんもいっしょに、しんけんにかんがえました。そして、とことん話あいをすすめましたところ、ゆうこさんは、『わたしはおおたさんとのおんせんりょこう（賞？）よ！』と言いました。ぴんぴんもうれしくなりました。ぴんぴんのこと、いやらしいいきものだなんていわないよね。ぴんぴんはこれからもゆうこさんといっしょにがんばります。」

めいっぱいの拍手がわきおこりましゅた。ひゅーひゅーというくちぶえもきこえてきました。ぴんぴんすこしかおのほおのところぽぽっとあかくなてたかもしれませんね。

ぱーてぃーもいいところをすぎておわりがかってきたとき、いまゆい編集長のうしろすがたをとおくからみました。いつものしるくはっとをかむっていました。りょうかたにはモコちゃんらしきものをのせてちゅうにうきながらどこかへきえていきました。

うしろをむくとすてーじではゆうこさんのさつえいかいがはじまっていました。ぴんぴんにはそんなよていきかされていませんでしたので、すこしとまどいました。

しばらく、森のなかまにあえるかとおもってかいじょうをうろうろしました。いろんなひとに、ぴんぴんさん！といって握手やさいんをもとめられながら…

そしてみんなのなかからすこしはぐれて、さっきいまゆいさんがあるいていたあたりがちかくにひろがりました。そこからむこうはまっくらでなにもみえません。ゆうこさんのところへかえろうとしてからだをうごかすと、おおきいせのたかいものにあたりました。それはみやびさん（？）でした。ぴんぴんはみやびさんにあうのははじめてですので、うしろから、ぴんぴんです！ぴんぴんです！とさけびましたがいっこうにみやびさんはぴんぴんにきづいてくれませんでした。よくみると、みやびさんは、まえをのそのそあるいてきた、にたいkもののほうにくぎづけになっていました。そして、にわかに、にたいkものになにかはなしかけたのです。するとにたいkものはみやびさんのところからにげていってしまいました。ぴんぴんもおおいそぎでゆうこさんのところにかけていきました。ゆうこさんはともちゃんのかっこうで、なんかさみしい、といってまっていてくれました。

投稿規程

形式自由。
詩・童話、お話・童話、それになりきらないもの何でも。
ただし、今のところ投稿コーナーは3サラ4ページしかありませんので、抄録させて頂く場合があります。

一年の投稿のなかから、「ミルチャンの新設答術賞」（予定）を贈呈します。

・・・応募先・・・
〒五一三－〇八〇一
三重県鈴鹿市神戸八丁目－三－三〇
ミルチャン編集室　宛

応募数：2
1/31〆切分

Tahala Yuko

巻末グラビア

二刷記念。
初刷よりやや
大きめでお送りします。

オマケ。

編集後記 ▶▶▶

ミルチァン編集部です。
2 月に作った「創刊準備号（創刊準備第一号）」を小部数ですが二刷することになりました！
増刷なので広告頁がなくなって全 28 ページ、カラー頁はそのままに、サイズは前回の創刊準備増刊号で決定した読みやすい可愛いサイズに変更してお届けします。
同時に、「創刊 vol.-1 号（創刊準備第二号）」もできて、次はいよいよ創刊号登場です！
ミルチァンをお楽しみください。

次号予告 ▶▶▶ 2009. 7 創刊号！特集＊秘密 / 蜂蜜＊

★"アンティークからはじまる物語" 第 2 回
★作品：田原 優子、空木 透、灰根子、宮弥 星全 他
★今唯ケンタロウ 長編ファンタジー「花畑へ」連載スタート
★イラスト・絵が更に充実！ お楽しみに。田原 優子氏のグラビア頁もより充実 !!
★投稿コーナー作品募集中！ 本誌 ひとつ前のページを見てね

2009.6 増刊号 発売決定！
★ 特集＊宮弥星全＊／連載小説「Midnight train / the city sky」

付録　以降予定
田原優子　CD
「My Place To Die」
QUEST「チークダンス」
他・・・準備中。

＊ご注文・お問い合わせはミルチァン編集室まで。お気軽に。
millchan@mecha.ne.jp　ミルチァン編集室

MillChan Magazine
ミルチァン
No.1　創刊準備号
2009 年 2 月 14 日初版
2009 年 6 月 13 日二版
発行所　Design Basket
〒513-0801
三重県鈴鹿市神戸 8-3-30
ミルチァン仮編集室
印所・製本　オレンジ工房
〒556-0025
大阪市浪速区浪速東 1-2-5
400 円
© 2009 Design Basket

profile

K O K O A （1987･）	Kokoa	短大の美術科卒． メリーゴーランド童話塾第 11 期生
今唯ケンタロウ （1980･）	ImayuiKentaro	ユリイカの新人． メリーゴーランド童話塾第 11 期生
楠 乃 頌 子 （1981･）	KusunoShoko	メリーゴーランド童話塾第 14 期生
田 原 優 子 （1985･）	TahalaYuko	「星と泉」が推薦する新人．モデルとしても活動． メリーゴーランド童話塾第 14 期生
日々ノ十夢 （1981･）	HibinoTom	「ユリイカ」「現代詩手帖」新人作品に掲載．
ブリングル （ ? ）ｍ人妻	Buringuru	「ユリイカ」「詩と思想」「婦人公論」「産経新聞」 等に掲載．
宮 弥 星 全 （1980･）	MiyabiSeizen	名古屋 K 学院ゲームプログラミングコース卒． フリースクール・めだかの学校在籍．

Design Basket

400yen